

話し手の1分は聞き手の3分です。

実質的に1分で終わらせたいなら、15秒で話を切り上げます。それ以上は、はみ出ています。

話し手と聞き手の時間感覚は、まったく違うのです。

「1分以上は、話さない」つもりでいることです。

実際、伝えることのできる人は「1分以内で話す」という制約を自分にかけています。そのため必要なのが必要です。

私は早稲田大学文学部演劇科の映画専攻でした。

学年に1人は映画をベラボウに見ている人がいました。

Tさんは、気の毒なことに、映画の説明が下手なのです。

まじめすぎて、全部話そうとするからです。

2時間の映画の説明に2時間以上かかります。

聞いている側は、訳がわからなくなるのです。

広告のコピーも要約です。

本を1冊読んでも、受け取るのは1文です。

**日常生活で「今度どこへ遊びに行こうか」という相談も、プレゼンも、会社での頼みごと、すべて要約する力が必要です。**

レストランでのオーダーも、1人1人が「アイスコーヒー」と言うよりも、「アイスコーヒー10個」と言ったほうが伝わります。

伝える力は、「アイスコーヒー」を10回言うか、「アイスコーヒー10個」を1回言うかの差なのです。

思わず動きたくなる話し方 01

1分以上話さない。